

南 牧 村 教 育 大 綱

南牧村の教育環境は、豊かな自然と広大な村域に恵まれる一方で、急激な少子高齢化の進展とこれに伴う人口減少に伴い、学校教育、社会教育ともにそのあり方については、村の将来を見とおしながら抜本的に見直すべき時期にきている。

同時に家族形態や生活様式の変遷と多様化の進展から、家庭教育の基盤を支える子育て支援や教育のさまざまなあり方についても、十分な議論が尽くされる必要がある。

いずれも、村民が主体となった検討が欠かせないものであり、村はその意向を最大限に汲み取りながら、大局的な観点からよりよい南牧村の教育環境を整えていかなければならない。

豊かで住みよい村づくりを謳う村民憲章と、南牧村教育目標である「ふるさと南牧」の精神に則り、子どもたちの人間性・社会性を豊かにはぐくむために、学校・家庭・地域社会が連携して子どもたちを見守り、育て、支える環境づくりが必要である。

さらに、あらゆる世代において村民が南牧村に住むことに誇りを持ち、より豊かな家庭、学校、社会生活を営みながらその人間性を深めることをめざし、ここに南牧村教育大綱を策定する。

平成 28 年 9 月 1 日
南牧村長 大村公之助

【学校教育】

南牧村の広大で美しい自然環境は、豊かな情操を育くみ、強じんな意志と体力を培うことを可能としている。

その南牧村の特性を活かし、地域に根差した学校教育活動を行うとともに、幼少期から一貫した学習環境を整えることにより、郷土を愛し、そこで学ぶことに誇りを持ち、自ら学ぶ姿勢と豊かな社会性、確かな学力を身につけた児童・生徒の育成に努める。

1. 既存の教育課程や学年・学校段階にとらわれずに、保育園などの幼少期から義務教育 9 年間で高等学校までをみとおした一貫した教育活動により、個々の児童・生徒の自律性・社会性を育む学校運営に努める。
2. 南牧村の地域資源を環境教育や校外活動等の各種教育活動に取り入れるとともに、地域住民の教育活動への参画と学校運営を応援する仕組みづくりを構築し、地域全体で子どもたちを育てる取り組みを進めることにより、児童・生徒が南牧村で育ち学ぶことに誇りを持ち、より豊かな自尊感情と社会性・他者性・歴史認識を育む教育に努める。

3. すべての学習の根幹となる「読み・聞いて理解し、書き・話して伝える」コミュニケーション能力をたかめるための国語教育の充実を図り基礎的な学力向上に努める。
4. 低学年時からの英語教育の充実により、国際理解教育と英語でのコミュニケーション能力の向上を図り、グローバル化の進展に対応した人材の育成に努める。
5. 学校での体育・運動活動と、家庭と連携した運動習慣や食育活動の推進により、健康で強い心身の育成と体力づくりに努める。
6. 学校、家庭、地域社会の連携を図ることにより、道徳的な規範意識と実践力をたかめ、強い意志と自制心及び他者へのまなざしをもった児童・生徒の育成に努める。
7. 子どもたちが学ぶうえでの安心・安全に最大限配慮し、かつ障害の有無によらず、誰もが地域の学校で学べる理念にのっとり学校施設・運営体制の計画的な整備に努める。

【家庭教育】

家族形態の多様化や日々変遷していく社会環境の中で、子どもたちのより豊かな人間性や社会性の育成には、なお一層の家庭教育の充実が重要となる。

基本的な生活習慣や深い思いやりの心を育むためには、幼少期からの日常の家庭生活において豊かな情操を養うことが欠かせない。

また、基礎的な学力の更なる向上には、学校教育と連動した家庭での学習が重要な要素となる。

家庭内において生活習慣や道徳的な規範を身につけ、保護者と子どもが相互に信頼しあい、ともに明るい家庭生活を送ることにより、子どもたちのより豊かな人間性が育まれる教育環境をめざす。

1. 家庭での団らん、家庭内での行事や勤労などをとおして、基礎的な人間関係や信頼関係の構築を身に付け、社会生活に適応する子どもの成長をめざす。
2. 子どもの尊厳を大切にしながらも、時には保護者として毅然とした態度でしつけ且つ教え、社会に貢献し規範を持って生きる子どもたちの成長をめざす。
3. 学校との連携による家庭での自学の充実により、自ら学ぶ意思と喜びを持った子どもたちの成長をめざす。
4. 家庭生活の充実とともに、学校や他の家族、地域の人々とのつながりにより、郷土を愛し豊かな社会性を持った子どもたちの成長をめざす。

【生涯学習・文化活動】

南牧村は広大な村域を有し、八ヶ岳連峰や千曲川などの雄大な自然環境に恵まれている。また、矢出川遺跡群をはじめとした貴重な考古学的史料や、各地区に伝えられる「かんが

り」・「獅子舞い」・「十日夜」などの伝統行事が先人の努力のもとに今に伝えられている。

他方で人口減少の進展に伴い住民の自主的な社会教育活動の継続が困難となりつつあるとともに、就業構造の特性により主たる生涯学習・文化活動の活動時期は冬期間に限定されるという特徴を持っている。

南牧村の恵まれた自然環境や文化遺産を大切に保存しながらも十分に活用し、すべての村民自らが生涯にわたって学び、各種文化活動やスポーツ活動などの地域社会での諸活動をとおして地域への愛情を深め、生きがいを高め、健康で豊かな文化的な生活を営むことをめざす。

1. 村民主体の各種文化活動・スポーツ活動を支え育てるため、情報・機会・会場の提供に努め、これらの活動を通じたコミュニティのさらなる結びつきの熟成に努める。
2. 各種文化活動等をとおして、南牧村の自然や文化遺産を尊重し保護する心をすべての村民が共有する村をめざす。
3. 各種文化活動等をとおして自ら学び活動し、より健康的で生きがいを持って生活できる文化的、社会的な環境の実現に努める。
4. 地域に密着した芸能文化である「南牧村音頭・小唄保存会」や「八ヶ岳高原南牧太鼓保存会」の伝承に努める。
5. 学校教育・家庭教育・社会教育の連携により、南牧村の住民であることに誇りの持てる村づくりに努める。